

# 第10回広報研究会が開催される 「見えない産業から、見える産業へ」

製薬産業・企業の信頼感を高めるための広報担当者の役割

広報委員会が新体制でスタートし、10回目の節目を迎えた広報研究会が「見えない産業から、見える産業へ」製薬産業・企業の信頼感を高めるための広報担当者の役割をテーマに、永山会長、市野瀬担当理事の参席のもと、平成10年10月15、16日の両日、グランドホテル浜松において開催されました。

15日午前の第11回広報委員会総会に引き続き会員会社54社92名の広報担当者が参加し、永山会長の基調講演および予め配付された資料等をベースに活発なグループ討議・全体討議が展開され、また参加者個々では、情報交換、意見交換、また懇親会でのアトラクションの“護城太鼓”の演奏もあり業界の前に立ちふさがり暗雲を吹き飛ばすように全体として相当に盛り上がった広報研究会となりました。

広報研究会は冒頭、永山会長が基調講演「医薬品産業と広報 医薬品産業論の展開」の中で、NHK BS討論での裏話、PPBH等において自身が行った広報活動、産業論の展開では理論的広報の重要性等について講演しました。

グループ討議に先立って、各部会長から部会活動状況報告がなされ、続いて淑徳大学国際コミュニケーション学部：藤江俊彦教授から4つのテーマ毎のグループ討議の切り口・討議のポイント等について説明がありました。

グループ討議は、「マスメディア向け広報」「生活者向け広報」「社内向け広報」また今回初めて「医療関係者向け広報」を取り上げ、討議には委員長以下部会長等全員が参加しグループ討議の運営に当たっては、グループリーダーが予め藤江教授の指導を受けたこと、参加者が希望するグループに加わったこと等により、活発な討議が行われました。

翌、2日目のグループ討議結果発表では、フォーとの活発な意見交換に加え、テーマ毎に藤江



永山会長の基調講演も行われた広報研究会

教授のコメントがなされました。藤江教授の講演：「グループ討議を受けて - 医薬品業界の広報のあり方について」では、経済環境の変化の中、パブリックリレーションではステークホルダーとの長期的・良好な関係構築が如何に重要か、専門的立場あるいは身近な事例を取り上げ、今回の研究会のテーマのすべてを包含した講演でした。

福室広報委員長は、閉会の挨拶で、「グループ討議の発表は、全体的に質の高い内容であった」と述べるとともに、メディア向け広報の社内の理解の醸成・事務局としてのマスコミ対応・適正使用での情報提供と情報処理・他団体とのシンポジウムの取扱い・情報開示等の課題に関して、2日間の研究会討議を活かすべく各課題に積極的に取り組んで行く方針を明らかにし、各企業での対応も重要な位置づけにあると強調されました。

(広報委員会第6部会部会長 中村一夫)